

児童手当・特例給付 認定請求書

(あて先) 尾道市長 様
次のとおり請求します。
なお、受給資格の確認のために、市が必要な税情報等の公簿等の確認を行うことに同意します。

申請事由	出生・転入・生計変更	提出年月日	※受付確認年月日
	離婚・離婚協議中別居	令和 . .	令和 . .
	その他 ()		

請求者	(ふりがな) 氏名 (法人名等)	性別 男 . 女	生年月日 昭和 . . 平成 . .	配偶者の有無 有 . 無	職業 1. 被用者 2. 被用者等でないもの 3. 公務員 (勤務先)	支払希望金融機関 ※請求者名義に限る	金融機関名	口座番号
	住所 (法人の主たる事務所の所在地) 尾道市 電話 ()						銀行 信用金庫 農協 信用組合	名義人 (カタカナ)
配偶者等	(ふりがな) 氏名	生年月日 昭和 . . 平成 . .	住所 同居・別居	請求者と配偶者との関係 ※請求者と別居している場合のみ記入してください。			職業 1. 被用者 2. 被用者等でないもの 3. 公務員 (勤務先)	支店 支所 出張所
	個人番号			電話 ()				

1月1日時点の住所 (1~5月分は前年、6~12月分は本年) 請求者 ※他の市町村に住所を有していた場合に記入してください。 配偶者等 ※他の市町村に住所を有していた場合に記入してください。

児童 (18歳に達する日以後の最初の3月31日までにある子)	氏名	続柄	生年月日	同居・別居の別	住所 (請求者と別居している場合のみ記入) (海外留学の場合、出国年月)	監護の有無	生計関係	※児童との関係で、該当する場合に○印	※3歳未満	※3歳~小学生	※中学生	
				平成・令和 . .	同居・別居	(平成・令和 年 月)	有・無	同一・維持	・未成年後見人 ・父母指定者 ・同居父母			
				平成・令和 . .	同居・別居	(平成・令和 年 月)	有・無	同一・維持	・未成年後見人 ・父母指定者 ・同居父母			
				平成・令和 . .	同居・別居	(平成・令和 年 月)	有・無	同一・維持	・未成年後見人 ・父母指定者 ・同居父母			
				平成・令和 . .	同居・別居	(平成・令和 年 月)	有・無	同一・維持	・未成年後見人 ・父母指定者 ・同居父母			
				平成・令和 . .	同居・別居	(平成・令和 年 月)	有・無	同一・維持	・未成年後見人 ・父母指定者 ・同居父母			

加入している公的年金制度の種別	ア. 厚生年金保険 () 私立学校教職員共済 () 共済組合の組合員である場合は該当するものに○を記入してください。 () 国家公務員共済 () 地方公務員等共済 ()	イ. 国民年金 () ウ. その他 ()	譲渡所得の有無	有 . 無	※認定・却下年月日	支給開始年月	令和 . .	※区分	手当月額
-----------------	---	------------------------	---------	-------	-----------	--------	--------	-----	------

※不足書類	提出日	扶養親族等及び児童の数 (うち70歳以上の同一生計配偶者及び老人扶養親族の合計数)	令和 . . 年分所得額	※控除後の所得額	※所得制限限度額	□児童手当 □特例給付 (5,000円× 人)	手当額算定内訳
□振込口座 (/)	(/)	人	円	円	万円	3歳未満 人×15,000円 (第1、2子)	3歳以上小学生 (第3子) 人×15,000円
□保険証・年金加入証明書 (/)	(/)					中学生 人×10,000円	
□所得証明書 (H 年度) (/)	(/)						
□その他 (/)	(/)						

※審査	平成 年分 所得の合計額	控除					*入力
		雑損控除額	医療費控除額	小規模企業共済等掛金控除額	障害者控除額 障 人・特障 人	寡婦・寡夫・勤労学生控除額	児童手当法施行令第3条第1項による控除
		円	円	円	円	円	80,000円
							*チェック

健康保険証(請求者本人のもの)の写し 貼り付け欄

注意

- 「氏名(法人名等)」の欄は、請求者が個人である場合は氏名を、法人である場合は法人名及び代表者氏名を記入してください。
- 「住所(法人の主たる事務所の所在地)」の欄は、請求者が個人である場合は住民票上の住所を、法人である場合は主たる事務所の所在地を記入してください。
- 「個人番号」の欄は、請求者が個人である場合のみ12桁の個人番号を記入してください。
- 「職業」、「性別」、「生年月日」、「配偶者の有無」、「加入している年金等の年金手帳、組合員証又は加入者証の種類」、「介護所得の有無」、「扶養親族等及び児童の数」、「所得の状況」の欄は、請求者が法人である場合は記入する必要はありません。
- 「配偶者等の氏名」、「配偶者等の職業」、「配偶者等の住所」及び「配偶者等の個人番号」の欄は、2人以上で児童を養育(監護し、かつ、生計を同じくするかまたは生計を維持することをいいます。以下同様です。)している場合に記入してください。「配偶者等」とは、児童を養育する配偶者、未成年後見人等をいいます。なお、配偶者には、児童を懐胎した当時婚姻の届出をしていないが、請求者と事実上婚姻関係と同様の事情にあった者を含みます。
「配偶者等の住所」の欄は、配偶者等が請求者と別居している場合のみ記入してください。
- 「1月1日時点の住所」の欄は、請求者(個人である場合)及び配偶者等が本年(1月から5月までの月分については、前年をいいます。)1月1日に他の市町村(特別区を含みます。以下同様です。)に住所を有していた場合は、当該住所を記入してください。
- 「児童」の欄は、請求者が養育をする18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある全ての子について、記入してください。
- 児童が海外に留学している場合は、「海外留学をしている場合の出国年月」の欄に、いつから留学しているか(出国した年月)を記入してください。
- 「生計関係」の欄は、次によって記入してください。
 - 「同一」は、児童が請求者自身の子である場合や請求者が未成年後見人又は父母指定者である場合で、請求者がその子と生計を同じくしているときに○で囲んでください。
 - 「維持」は、児童が請求者自身の子でない場合で、請求者がその子の生計を維持しているときに○で囲んでください。
- 「加入している年金等の年金手帳、組合員証又は加入者証の種類」の欄は、請求者の請求の日における公的年金制度の加入の状況について、次により記入してください。
 - 加入している公的年金制度について、「ア」から「ウ」までのいずれか該当するものを○で囲んでください。「ウ」を○で囲んだ場合は、()内にその年金の名称を記入してください。
 - 「ア」を○で囲んだ場合で、第四種被保険者又は高齢任意加入被保険者(これらの者が保険料を自ら全額負担している場合に限りです。)であるときは、当該欄の余白に「四種」又は「高任」と記入してください。
- 「所得の状況」の欄は、請求者の前年(1月から5月までの月分については、前々年をいいます。)の所得についての市町村民税又は特別区民税の総所得金額、退職所得金額、山林所得金額、土地等に係る事業所得等の金額、長期譲渡所得金額及び短期譲渡所得金額(譲渡所得に係る特別控除を受けた場合は、その額を控除した額)並びに先物取引に係る雑所得等の金額の合計額から8万円を控除した額を記入してください。
なお、市町村民税又は特別区民税で雑損控除、医療費控除、小規模企業共済等掛金控除、障害者控除、寡婦(寡夫)控除(当該控除のみなし適用を申請する場合は、その額を控除した額)又は勤労学生控除を受けた場合は、それぞれの額を更に控除した額を記入してください。
- 「扶養親族等及び児童の数」の欄は、市町村民税又は特別区民税における同一生計配偶者及び扶養親族の合計数を、また[]内には、このうち70歳以上の同一生計配偶者及び老人扶養親族の合計数を記入してください。
なお、請求者の親族ではないが、前年の12月31日に請求者が生計を維持した児童があった場合は、その数を加えた数を記入してください。
- この請求書には、次の書類を添えて提出してください。なお、当該書類により証明すべき事実を公簿等(マイナンバー制度による情報連携を含みます。)によって市長が確認することができるときは、当該書類の添付を省略することができます。
 - 児童が他の市町村に住所を有する場合は、その児童の住民票の写し又は住民票記載事項証明書であって、その児童が世帯主である場合にはその旨、その児童が世帯主でない場合には世帯主との続柄が記載されたもの
 - 児童が海外に留学している場合は、当該児童が日本国内に住所を有しなくなった日の前日まで引き続き3年を超えて日本国内に住所を有し、教育を受けることを目的として外国に居住していることを明らかにすることができる書類
 - 児童が請求者自身の子であり、請求者がその児童と別居している場合は、請求者のその児童に対する養育の状況を明らかにすることができる書類
 - 請求者が未成年後見人である場合は、当該事実を明らかにすることができる書類
 - 請求者が父母指定者である場合は、当該事実を明らかにすることができる書類
 - 児童が請求者自身の子でない場合は、父母とその児童との養育関係及び請求者とその児童との養育関係を明らかにすることができる書類(請求者が未成年後見人又は父母指定者である場合を除く。)
 - 生計を同じくしない配偶者等と別居し、児童と同居している場合は、当該事実を明らかにすることができる書類
 - 請求者が本年(1月から5月までの月分については、前年をいいます。)1月1日に他の市町村に住所を有していた場合は、請求者の前年の所得の額と、その所得に係る市町村民税又は特別区民税における同一生計配偶者及び扶養親族の有無と数についての市町村長の証明書
 - 「12」の後段に該当する児童があった場合は、その事実を明らかにすることができる書類
 - 請求者が寡婦(寡夫)控除のみなし適用の申請を行う場合は、その事実を明らかにすることができる書類
 - 請求者が被用者であるときは、当該事実を明らかにすることができる書類

備考

- 必要があるときは、所得の変更又は調整を加えることができる。
- 受給資格者に周知することにより、注意事項を省略することができる。